第一八回 アジ研図書館は知のテーマパーク

豊田優美子

ここ海浜幕張の「アジア経済研究所図書館」を初めて訪れたのは、もう一〇年ほども前でしょうか。「すごい図書館が幕張新都心にある」という話は以前から聞いており、ようやく開館日の土曜日に都合を合わせて来てみたのです。

入ってまず「明るい！」という第一印象。トップまでの高い吹抜けを取り巻くように開架書庫がコの字型に配置されており、東側一面のガラス窓からフロア全体に明るい光が差し込んでいます。各階にある閲覧席は、席数も多くしかもゆったりと配置されています。そして開架書庫では数多くの書籍から、圧倒的な知のオーラが放たれています。学生時代に養われた「研究機関の図書館＝古くて暗い」（失礼！）というイメージからは対極にある、柔らかい光あふれる風情に、正直驚かされました。

そして初めて手に取った資料は、今でも鮮明に覚えていますが、約一〇〇年前に日本政府が行った「ブラジル移民事業」に関する歴史的考察資料でした。当時の広報資料などもそのまま掲載されていました。明治期以降、ブラジルを含め様々な国へ移住し開拓を行った日本人が多くいたことはよく知られていますが、実際の「移民募集案内書」をみたのはその時が初めてであり、約一〇〇年前の歴史に素手で触れた生々しさが心を捉えました。

こうして、初めてのアジ研図書館体験はブラジル関連資料との出会いでした。「アジア経済研究所図書館」という名称からは、アジア関連資料のみが専門的に蓄積されているかのようにイメージしますが、実際には、ほぼ世界中の国・地域がカバーされており、なかでもアジア諸国や中南米・アフリカなど新興国の占める割合が高いという状況です。通常の書店や図書館で主要先進国関連の出版物が多いのが一般的であるのとは、対照的な環境であるといえましょう。

さてここで、私が最近みつけて興味を惹かれた書籍の一端をご紹介します。

『昭和九年度版「ソ」聯邦重要事項誌（外務省調査部）』――ソビエト連邦十五共和国の政治経済動向が、時系列でレポートされています。

『The Manchoukuo Year Book 1943』――歴史に一瞬のみ存在した「満州国」の、英語による年鑑です。七〇〇ページ超に及び、統計も豊富です。

『From the Congo to the Niger and the Nile』――一九一三年にロンドンで出版されたアフリカ紀行文です。当時貴重であった写真とそれを補完する美しいイラストが印象的です。

私は研究者ではありませんので、残念ながらこれらの書籍や資料の価値を正確に或いは妥当に評価する術を持っておりません。しかし私にとってアジ研図書館の最大の魅力は、こうした貴重な資料に、私のような素人が気軽にアクセスできることなのです。このようなことを可能にしてくださっている図書館スタッフの皆様方のご努力に、この場をお借りして心から御礼を申し上げたいと思います。

会社員の身ですので、ここに来られるのは第一・第三土曜日のみです。（もし平日で開館時間延長日など設けていただけるとより使い易くなると思います。）入るとまず新着書籍をチェックすることから始めますが、この時点でもう心がわくわくと弾んでいます。個人賛助会員になると書籍の貸出しもしていただけますので、心に留まった書籍は借りて家でゆっくり読みます。

でも本当はもっと頻繁に来たいですね。人生に多くの時間があったとしても、アジ研図書館の膨大な資料を制覇（？）することはかなり難しいのです。ここは各国現地語の最新の新聞・雑誌等も豊富なので、語学の勉強もできます。また見知らぬ国へ訪れるきっかけも数多く与えてもらいました。しかし日本語に加えて英語が少し読めても、それだけでは歯が立たない資料が本当にまだまだたくさんあるのです。ああ、世界は本当に広い！

まだアジ研図書館にいらしたことのない読者の皆さま、ぜひ一度ご来館ください。京葉線海浜幕張駅を降り、緑織りなす公園を抜けて広々とした歩道に出ると、瀟洒な白い建物が迎えてくれます。どんなテーマパークよりも楽しい、知の興奮が皆さまをお待ちしています。

（とよだ　ゆみこ／株式会社電通　経営企画局部長）